



祝 栄村二十歳の集い

8月15日、栄村二十歳の集いを文化会館かたくりホールで開催しました。懐かしい友との再会で笑顔であふれた式となりました。

次世代を担う新成人の皆様の今後の活躍に期待しています。

主な内容

- pick up 村の水稲農業等の現状と今後について…P 2-3
- 冬期職員の募集……………P 4
- 二十歳の集い 開催……………P 5
- お知らせ……………P 7-8
- 教育委員会報……………P 10-11
- 公民館報(第348号)……………P 14-21

コロナ禍3年目の御祭礼

2022栄村各地区御祭礼実施状況

例年実施の内容は番号で表記しています。

- ①獅子舞、②ちょうちん行列、③さいとり舞、
④天狗、⑤盆踊り、⑥神事

集落名	例年	実施状況
白鳥	①~④⑥	神事と打ち上げ花火
平滝	④⑥	神事
横倉	①②⑥	神事と打ち上げ花火
青倉	①②⑥	神事
森	①②⑥	宵祭りなし。神事後獅子舞
泉平	⑥	
箕作	①②③⑥	獅子舞とさいとり舞を1度だけ実施。神事、あくま祓い
月岡	①②⑥	短縮して獅子舞。神事
小滝	①②⑥	提灯行列（短縮）、獅子舞1回を実施。神事
野田沢	①⑥	神事。獅子頭新調
大久保	②⑥	
雪坪	⑥	神事
志久見	①⑥	神事
柳在家	⑥	神事
切欠	⑥	
長瀬	①④⑥	神事
笹原	⑥	神事
北野	⑥	神事
中野		
極野	①③④⑥ さて	神事
坪野	春祭りに 変更	神事
小赤沢	⑤⑥ 打上花火	打上花火、神事
屋敷	⑥	神事
上野原	⑥	神事
和山	⑥	神事

※一部予定を含む



森地区



小滝地区

7月末から感染拡大をし始め、県内のレベルはどんどんと高くなり、感染者数も過去最多を記録しました。3年目ともなると、国や県から発令される内容はこれまでと異なり、県をまたぐ移動の制限や人と会う機会の軽減といった「行動規制」が発令されない中で、御祭礼シーズンとなりました。

村内の御祭礼状況を、公民館報編集委員が独自に調査した結果、左上の表の通りとなりました。一年目、「祭りをやらないのは楽でよい」という声も聞こえてきましたが、3年目ともなると、「それでも何かしうじゃないか」と、すべてを中止にするのではなく、実施方法を変更したり、打ち上げ花火をあげたりと、工夫する集落もありました。

以前公民館報の「ど先生の昔語り」にて紹介したものに、1746年、箕作に各所の獅子舞が集まり、踊揃えをしていたことや、箕作の獅子が野沢温泉村へ出張していたという内容がありました。御祭礼がいつからどのように始まったかは定かではありませんが、集落が個々に持つ、唯一無二の貴重な御祭礼が、コロナによって失われることなく、できる限り後世へとつながってほしい。そう願うばかりです。

公民館報

さかえ

第348号

令和4年9月1日発行

発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺9214-1

電話
0269-87-2100

編集
栄村公民館報編集委員会

くらっせ通信

館長コラム

「この村で暮らす面白さ」を追いかけてい。

この数年芸術や生音楽といったものに接してないなど感じていた。コロナなるものが世の中に出回ってない3年ほど前に「久しくコンサートが行われていないかたくりホールで音楽を届けたい」との誘いがあった。堅苦しそうだな、と自分勝手な思い込みと苦手意識で後ろ向きな態度をしていた私であった。その時静かにポツリと発した声があった。「文化活動なき所に過疎からの脱却はない」脳天に突き刺さった気がした。確かにそうだ！いろんなものに触れたり感動したりして刺激を受けなければ面白くないもんね。面白くなければこの村に暮らしている価値観がわからないもんね。面白さを自分たちで求めて自ら動くことが面白さなのかもしれない。自分の好き嫌いだけで判断していた自分が何とも情けなく反省した。「文化活動なき所に過疎からの脱却はない」が心の片隅に腰を下ろし、い

つも問いかけてい。 「文化活動って何なのか？」

古い写真を眺めていたら「第1回栄村総合文化祭」の垂れ幕が目をつけた。踊りを踊ったり、歌を歌ったり、楽器を演奏していたりしている場面である（左写真）。自分たちで学んで楽しんでいことを発表しているエネルギーを感じた。栄村の絵手紙のキャッチフレーズに「ヘタでいい、ヘタがいい」とあるが、まさにそのとおりだ。「稼ぐ」ことはもちろん大事だけど、この村での暮らしを自ら楽しむということが大事では？そしてそれを繋いでいくということも。その資源と仲間はこちらにはたくさんあるのだから。



記念すべき第1回栄村総合文化祭（昭和54年11月）
実行委員長は桑原一富さん（北野）

集落ワークショップ始動！

集落は、人それぞれの舞台であり、寝床であると考えています。自分の人生を豊かにするためには、住んでいる集落を整えることが大切です。集落を整えるのは、そこに住む集落住民。だからこそ、同じ集落に暮らす人同士が個々に考えている想いを言葉にし、対話を重ねることが大切になってくるのではないのでしょうか。

8月3日(水)和山公民館と共催で、これからの和山について考えるワークショップを行い、「和山をこうしたい」「和山でこんなことをしたい」「和山で残したいものは？」というテーマで一人ひとりの想いを言葉にしました。他の集落でもこうした動きに向けた準備が進められています。

集落ワークショップを通して、私たちの暮らしやすい地域を、私たちの想いと行動で共に創っていきましょう。関心のある方は栄村公民館へお問い合わせください。



和山集落でのワークショップ

公民館アーカイブスに向けて

昔の写真や映像は、当時の暮らしや文化を記す貴重な資料です。

現在、栄村公民館では、青倉出身の上辻旦泰さん（東京栄村会事務局長）に協力を依頼し、上辻さんが昭和40年頃から、帰省時や御祭礼、冠婚葬祭等、栄村で撮りためた動画を年代ごとに見られるように編集する作業を行っています。

まずは、栄村総合文化祭で昭和40年代の8mm動画を上映できるよう準備を進めています。文化祭には時代と共に変容してきた撮影機材等の展示も計画中。個人の記録を目的として撮影されたものではありませんが、その当時の風景や暮らしを垣間見ることができます。文化祭後はいつでもこらっせで鑑賞できるようにしていきたいと考えています。他の年代についても、時間はかかりますが、順次鑑賞できるように編集作業を進める計画ですので、どうぞお気軽にこらっせへお出かけください。

※アーカイブス…公文書などの保管所のこと。現在は、時代を記録した映像等を保存・活用する施設や機能を示す言葉としても用いられています。

昔話によくある「むかしむかし、おじいさんが山へ柴刈りに行きました。」の『シバ』のこと。シバは薪として燃焼に使われていました。また、主に畑のつる性の作物を誘引するためにも用いられており、現在の『イボ竹』の先祖です。雪に押し曲げられて弓状にな



シバ(柴) 野山の雑木の総称

栄村風土記

③

く永遠に残したい
栄村の暮らし

時代の移り変わりとともに村民の暮らしも変容しています。ここでは、後世へと伝えたい、栄村の文化を紹介しします。

った、2メートルほどの長さの低木を使います。この写真の畑の人はもう何年も使っているようで、とても重宝しているようです。使えなくなったら薪になり、まさに持続可能な地域の特性を生かした代物です。



ばあのごっつお紹介します!

ざっこくびら

- ①アクを抜いたゴボウ(ささがき100g)、少量の水で戻した早煮昆布(25g)、もどしぜんまい(2cmに切ったもの260g)、もどしいたけ(千切り220g)をだし汁(3ℓ)で柔らかくなるまで煮る(30分程度)。
- ②ニンジン(ささがき1本)、焼きちくわ(薄目半月切2本)、昆布(3cmの長さで細切り)、アクを抜いたこんにゃく(短冊切1丁)、厚揚げ(油抜きし短冊切1丁)、里芋(他の材料に合わせて切り、塩もみをしてぬめりをとる300g)を①に入れ、少し煮立ったら、醤油(170cc)、酒(90cc)、塩(小さじ2)、砂糖(大さじ2)を入れて15分(具材が柔らかく、味がしみこむ程度)煮たら火を止め休ませる。
- ③再度弱火で5分煮て完成!



塩煮芋 (しょーにいも)

- ①ピンポン玉程度のじゃがいも3kgを皮ごとよく洗う。
- ②鍋に油(大さじ5~7)を熱して①をいれシワと少しの焦げ目がつくまで鍋をゆすりながらよく炒める。
- ③②に水またはだし汁(7カップ)、砂糖(300g)、醤油(50cc)、みりん(100cc)、味噌(200g)、酒(100cc)、種とり唐辛子(3本)を入れて強火にかけ、沸騰したらとろ火で煮込む。
- ④1~2日何度か火を入れ、いもによく味がしみこむまで気長に煮て、煮汁にとろみがつくまで煮含める。



暑い夏の名残を感じつつ、秋風も感じるようになりました。村内の多くは、祭礼を盆に行いますが、皆さんは盆ごっつをおを堪能しましたか? 秋に祭礼を行う集落では、ズイキの酢の物、きくらげのからし

和えといったごっつおが定番の品として出されるのか。手がかりありますが、栄村の祝いごっつおとして欠かせないざっこくびらや作物を無駄なくいただく知恵である塩煮芋は伝承したい一品です。



十王堂って何？
 仏教信仰の一つで、十王経に記された十人の王を祀ったお堂。十王経には、亡者が冥府（閻魔の庁）



おら村の宝！ その3

青倉 十王堂

で裁かれた後、①初七日、②27日、③37日、④47日、⑤57日、⑥67日、⑦77日、⑧百箇日、⑨1周年、⑩3周年と各王の庁にて生前の行いの裁きを受け、これによって来世の生所が決まるといわれています。

栄村では、「葬式道具を入れておくところ」と認識している方も多いように、十王堂で葬儀を行っていた集落も多いようです。

青倉十王堂の特徴は？

堂内には、上段に十王と奪衣婆の木造、六地藏が並んでおり、枠組み天井は、今泉の和尚として知られる綿貫和尚の描いたものが用いられています。また、西国、坂東、秩父霊場供養坂碑もあり、一番ずつ観音様を浮き彫りにしてあるため、近隣の市町村では見るこ

とができない貴重なものとされています。
 青倉の方に聞くと、昭和初期頃に月に2回ほど十王堂に集まり、念仏やお経の勉強会をしており、お盆にはお堂を二重三重に囲んで盆踊りをしたそうです。

参考文献

- ・青倉歴史物語（発行者／貝立塾）
- ・栄村石像文化財

（発行者／栄村教育委員会）

栄村誌のことがおもしろい！

栄村誌歴史編を読んで

月岡 市川憲一さん

私の家の仏壇にある位牌の中で、最も古い日付は宝暦三年十月十六日である。西暦一七五四年（今から二六八年前）、徳川將軍は九代家重、知名人では、平賀源内が二五才、杉田玄白は二〇歳、小林一茶はまだ生まれていない。位牌の主は女性だが、いったいどんな人生を送ったのだろうか。眼を閉じ当時の月岡の景色を思い浮かべてみるのも面白い。

さて、栄村誌歴史編について。何度か読んでみた中で、とても印象に残ったことを書いてみたい。時代はさらに二〇〇年程遡った元亀二、三年頃のこと。歴史編の一八七頁、執筆者は遠藤公洋先生である。

その書き出しには、上杉謙信から配下の武將である栗林次郎左衛門に宛てた手紙（印判状）が掲げられている。その中に「市川寄居」と「市川新地」という文字が出てくる。寄居は「百合居」に転訛して現在に至ると思われるが、新地の方はこれまで謎だったのだという。遠藤先生がその謎解きをしているので、詳細は是非本文を読んでいただきたい。

遠藤先生は、新地は仙当城のことだと

No.3

歴史編から
 第四節
 戦国大名の「はやま」
 になったころ

いう。謙信は敵（この当時は武田氏）に備えるために、箕作と月岡に、寄居、仙当城それに城坂城などを整備し、軍事拠点を築いたのではないかと思われる。

仙当城は南側に敵を受ける構造になっている。これに対し、尾根伝いに一八〇〇m程登ったところに雨引城がある。この城からは、山伝いに野沢温泉へ行くことができ、仙当城に向けた面だけに土塁や堀が施されている。遠藤先生は、この城が敵側のものである。

私は、仙当城には数回、雨引城と城坂城にはそれぞれ二回登ってみた。いずれの城も、尾根に大規模な土木工事を施し、これを作った人はさぞ大変だっただろうと思つたのだが、そこに古文書による裏付けができると、俄然、現実味が増してくる。どんな人たちが何のために築いたのか、具体的にわかるからだ。当時、箕作や月岡周辺に住んでいた人たちもきっと動員され土木作業に従事したことであろう。その中に私の先祖もいたかもしれない。

私の父が子どもの頃、仙当城には我が家で耕作していた畑があり、そこで祖母がイモを作っていたのだと聞いたことがあるが、五〇〇年近くの時を経て、仙当城は静かにブナの大木におおわれている。

あーそんなことがあったんか
〜ど先生の栄村昔語り〜 其の五十二

『明治の千曲川通船計画』



地域史料保全有志の会
鈴木 努 (通称：ど先生)
イラスト作成：佐藤洋平

残暑の季節が過ぎ、秋の気配が漂う季節となりました。この夏は猛暑に加えて大雨による川の氾濫や洪水が多発しました。近隣での洪水被害といえば令和元年(二〇一九)の台風による千曲川洪水が思い浮かびます。幸い今夏はそのような被害を受けずに済みました。いつぼつで世界的には大干ばつとなり、欧州では河川が干上がって灌漑・用水難に加え水運に支障が出て、物価高騰やエネルギー不足に拍車をかけるようなことになっています。

前々回は、明治時代に千曲川の水運開発の願人に依頼されたフランス人が、本村の白鳥に来訪した話題を紹介しました。今回からは、その依頼主に関する文書を取り上げ、どのような目論見が行われたか、などを紹介しようと思います。

森地区の広瀬家文書に「千曲川開墾会社創立申合規則」と題した活版刷りの冊子があります。冒頭に会社の事業の概略を述べてあり、そこには水内郡長沼穂保町(現、長野市)から新潟県魚沼郡小千谷町までの岨瀧や大瀧と呼ばれる難所三か所の岩石を取り除いたり割り砕いて開墾し、川蒸気の運搬が出来るようにする、とあります。そして実現のため結社を組み盟約するためこの規則を定めたと述べています。結社は名称を「千曲川開墾会社」といい、本店と支店十か所を置くこと、創業資金を二〇万円とし、一株百円で二千株を発行して調達すること、事業内容はまず河道整備を行い、それが完成した後は長野県庁および新潟県庁の保護のもとに通行の船舶から川料を取り立てて収益とする事になっていました。

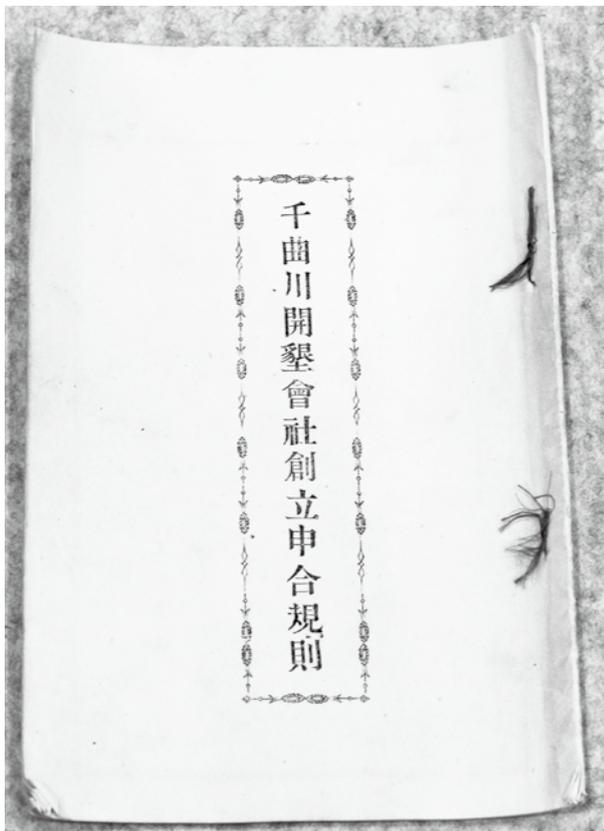
会社の発起人は水内郡長沼穂保町の塚田和作、ほか同郡石村・長沼穂保町・東条村・豊津村・大町から十一名、東京・神奈川から各

一名の計十四名で、住所から塚田和作の自宅に本店を置いたことがわかります。塚田和作は前々回の廻状に願人として登場する人物です。四十七か条の規則は明治十一年(一八七八)十月付けで、前々回紹介のフランス人來訪(同年五月)から半年後に決議されたようです。

事業の当初に工事する難所は、規則第四条に長野県管内十一か村・新潟県管内九か村の地先三か所とあるのみで具体的な場所と工法は付録書を参照せよ、とあります。残念ながら付録書は残っていませんが、難所の総延長は一四〇九間(約二・五キロ)、「岩

石怒瀬激浪」の箇所を鑿割り取り除ける予定だったようです。

十か所の支店は会社の営業区域に沿って高井郡山王島村(現、長野市)・同郡柳沢村(現、中野市)・水内郡飯山町・同郡桑名川村・同郡森村(現、栄村)・新潟県魚沼郡外丸村(現、津南町)・同郡水沢駅(現、長岡市)・同郡十日町・同郡岩沢村(現、小千谷市)・同郡小千谷町に置かれる予定でした。桑名川村から岩沢村までの支店は三等で、副支配人一名・手代一名・船方二名の四人詰めとなっており、森村にも三等支店を置くことになっていました。続きます。



開墾会社創立申合規則(表紙) 廣瀬博明家文書



御祭礼 ボクらのヒーローここにあり!

地域特有の伝統文化が子どもたちに伝えるもの。それは、大人が思う以上に、深く心の中に築かれる郷土愛なのではないでしょうか。



栄村公民館 図書室だより

..... 2022.9

栄村ではそろそろ稲刈りの準備が始まり、米の出来具合と、お天気が心配な毎日になりますね。台風などの被害がないよう、事故のないよう、無事に秋の収穫を喜びたいですね!!

収穫が終わればいよいよ読書の秋の到来です。今年気になった本は読みましたか?

今年は寄贈本がたくさん入りました。今まで図書室になかった本がたくさんありますので、たまにはふらっと図書室をのぞいてみてください。お待ちしております。

寄贈図書

- ・ 神様のケーキを頬ばるまで (彩瀬まる)
- ・ あずかりやさん (大山淳子)
- ・ 凍花 (斉木香津)
- ・ 幸福な生活 (百田尚樹)
- ・ KAGEROU (齋藤智裕)
- ・ 仮面同窓会 (梶井脩介)
- ・ イノセントブルー 記憶の旅人 (神永 学) 他83冊



本の状態や収蔵スペース等の要因により、ご厚意に添えない場合もございます。

寄贈される際は書籍の所蔵は一任していただきますようお願いいたします。

<p>★9月、10月の図書室休館日★ 9月10日、11日、17日～19日、23日～25日 10月8日～10日 9月は連休等で休館日が多く、ご迷惑をおかけいたします。</p>	<p>★栄村図書室開放時間★ 平日 午前8時半～午後5時 土・日 午前9時～正午 ※祝日は休館します</p>
--	--



月岡健斗さん (24歳) 白鳥

今話題のスケートボードを3年前から趣味で始めました。始めたきっかけは周りの仲間がみんなやっていてカッコいいと思ったから。まず、仲間とスケボーができる広くて良い路面を探し、県境の橋の下をスケートパークにしたいと申請し、許可を取りました。無事使わせて頂けることになり、仲間とアイテムを作成してイベントもやり、橋の下と私も一緒に成長しているところです。最近では小学校ピロティーを使わせて頂きながら、小学生を教えています。僕ら大人と比べて飲み込みが早く、凄い勢いで成長してます。

今成長途中の小学生も、一緒に教えて行く立場になってたら良いなあと思います。今後の活動目標は、栄村の大自然の中にストリートパークを作り子供、大人が楽しめる場所を作っていけたら良いなと考えてます。

村民広場

おおきくな〜れ



ピッチング練習にハマってます！
甲子園目指してがんばるぞ☆

こころ
心路さん (6歳・右上)

「ガーガー」が大好き。

コンバイン乗りたいなあ

かなた
叶多さん (3歳・左)

お兄ちゃんに負けないように大きくなるぞ!

みらい
未来さん (5か月・右下)

野球、相撲、駅伝と多趣味な長男です。兄に負けてない次男とダウン症の三男と仲よく遊んでくれる優しいお兄ちゃんです。これからも自分らしく元気にのびのび大きくなってね!

広瀬達也さん、智佳子さん宅 (眞作)

ようこそ! 栄村へ!!



佐藤真由美さん (坪野)
栄村民1年目

①栄村に来たきっかけは?

もともと東京で生活していましたが、人の多さに疲れてしまって、自然が多い中で暮らしたいなど2年前に単身で長野県に移住してきました。そこで当時栄村の地域おこし協力隊として働いていた夫と出会い、結婚を機に栄村に転居してきました。

②栄村にきて感じること

四季をすごく感じます。冬にはスノーボードをして、雪が溶けたら山菜採り。今年は田植えも人生で初めて経験しました。季節ごとにやること、楽しめることがあって、これからは楽しみだなと感じます。

③豪雪地で不安はありませんか?

正直不安でいっぱいです。ですが、3年間栄村で冬を越した夫がいるので、存分に頼りにしながら冬も一緒に楽しめたらなと思っています。

若者で復活!!バレーボールクラブ!!

皆さんこんにちは！平成30年から休部していたバレーボールクラブですが、今年4月、「ソフトバレーボールを含めた、幅広いバレーボールを楽しめるクラブとして復活させたい」という想いのもと、ソフトバレーボール愛好会とバレーボールクラブ（さかえスポーツクラブ所属）が融合し、新たなバレーボールクラブとして復活しました。

現在は、栄小学校体育館で、毎週土曜日午後6時から午後8時まで、幅広い世代の方々と集まって活動しています。バレーボールと聞くと、6人制バレーや9人制バレーを思い浮かべる方も多いと思いますが、初心者でも取り組みやすいソフトバレーボールを中心に、行っています。非常に楽しいスポーツなので、ぜひ一緒に活動してみませんか？今年11月には、ソフトバレーボール大会を開催できるよう、準備を進めていますので、多くの皆様のご参加をお待ちしています！



集いの場にじいろ



森集落にある旧医師住宅では、毎週水曜日（年末年始、祝祭日を除く）に「集いの場にじいろ」が開かれています。これまでに、近所の方や小さな子を持つ親子、大工さん、お料理上手さん等が集い、看板づくりやお菓子づくり、カフェの企画、ピザ釜づくり、ピザ作り等と様々な活動を繰り広げており、時には役場にてカフェを開くこともあるとか。「にじいろ」は、福祉支援の一環として村が行っている事業ですが、子育て世代から高齢者まで、誰もが集い、支え・支えられながら共に活動することを目指しています。みなさんもぜひ立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

集いの場にじいろ

- 期日：毎週水曜日 午前10時～午後5時
- 会場：旧医師住宅（森）

第44回栄村総合文化祭 出展者・出場者募集中!!

文化祭は皆さんの発表や作品によって盛り上がります！この機会に是非、趣味で作った作品をはじめ、大人の一研究、親子作品を出展してみませんか。ステージ発表では、日頃の練習成果や会場を盛り上げるための新企画まで、皆さんからのご参加をお待ちしております!! 詳しくは別添チラシをご覧ください。事務局（☎87-3118）までお問い合わせください。

みんなで文化祭を盛り上げよう!!

田んぼには赤とんぼが群れ、朝晩は涼しくなり、虫の音が夜空に響き、秋を感じる季節になりました。ここに暮らしているとあたりまえのことですが、視点を変えると、日々の暮らしの営みの中で受け継ぎ、守り続けた原風景は、一朝一夕でつくることができず、大金を積んでも手に入れることができない宝物です。ここに暮らしていることのありがたさに感謝します。

編集後記

今月の一句 ~栄村俳句会~

稲の香に癒されながら田草取る	虫の声聞きつつ夢の中に落ち	稲の花シヤラシヤラとゆれており	若わかし獅子に拍手す秋祭り	青葉風職人がたきの藁細工	古着物草履に化けて秋の雨	杖ついて草と向き合う玉の汗
杉浦恵子	山田邦江	柳 静江	関谷貞子	斎藤はる子	福原勇一	山田セキ